

データサイエンス・ラボ (学内完結型)

ラボの課題

データ分析における課題解決・提案

- * 岡山県統計グラフコンクールへの参加
- * 和歌山県データ利活用コンペティションへの参加
- * データ解析コンペティションへの参加

活動報告



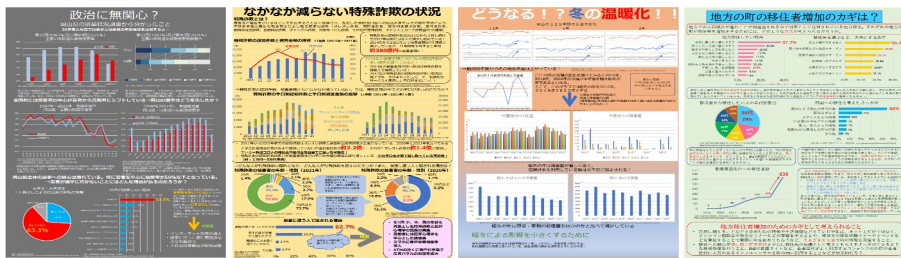
[ディスカッションの様子]

<岡山県統計グラフコンクール> [主催：岡山県総合政策局]

岡山県統計グラフコンクールに参加した。作品作りに当たっては、過去作品の分析をし、テーマとして好まれやすいトピックスやデザインなどをディスカッションし、戦略を立てた。作品のテーマとポスターは以下の通りである。

【作品タイトル】

- 政治に無関心？
- なかなか減らない特殊詐欺の状況
- どうなる！？冬の温暖化！！
- 地方の町の移住者増加のカギは？



<和歌山県データ利活用コンペティション> [主催：和歌山県データ利活用推進センター]

テーマは、「人口減少社会における人や企業をひきつける地域づくり」。ゆかりのある地域の現状・課題をデータに基づき分析し、以下のストーリーで、これからの新しい地域づくりの施策を提案した。

問題

地方移住への不安

空き家問題

地方でも同じ仕事

移住者の不安を払しょくし、地方の活力を高めたい

解決案

総合型サテライトオフィス

「和歌山県統計協会賞」を受賞



[賞受賞作品]



[授賞式]

<データ解析コンペティション> [主催：経営科学系研究部会連合協議会]

データは、楽天様から提供されたECサイトの購買データで、2年分合わせて1200万件の買い物データを分析した。昨年と同様、巨大ファイルが扱えるエディタ（EmEditor）を駆使して、単純集計や対象とするデータの抽出を行った。最終的に、食品に着目し、コロナ禍の影響を公開しているV-RESASのデータとリンクさせたり、商品カテゴリーのトップ3の購入件数を年齢別、地域別に比較するとともに、実際の商品から売り方の提案などを行った。

全体の様相

観点別の分析

飲食業界の変動



[成果報告会の様子]

1年間の活動の総括・成果について

春学期に取り組んだ岡山県統計グラフコンクールではデータをまとめる力をつけ、春学期から秋学期にかけての和歌山県データ利活用コンペティションでは学んだことを活かし、現地発表の体験と審査員からの評価は大変有意義であった。秋学期のデータ解析コンペティションでは、ビッグデータの活用方法やデータ分析の奥深さを知ることができた。

担当教員：森 裕一

所属学生：4名

ポスター制作：青井 智祐、大林 大佑、岡田 悠斗、小林 祐介